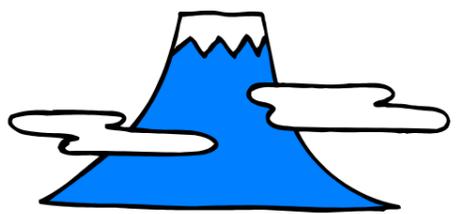


ほつぷ すじゃんぷ

特訓進学塾

名教



2013年度版 第1号

2013年4月18日(木)
名古屋教育文化センター

塾長コラム

あんぱんち

第三十四回

新しい学年が始まりました。新しいクラス、新しい先生になって、期待を膨らませる子、不安を抱える子、様々です。小さな変化も見逃さないように、しっかりと見守ってあげたい季節です。

さて、今回の「ほつぷすてつぷじゃんぷ」には、第2面に、スタッフ紹介の特集を載せました。久しぶりにメンバーが加わったので、名教のスタッフのことを、楽しく知っていただこうと、都築が編集しました。ぜひ、お子様とお楽しみください。その特集を書くにあたり、編集者の都築から、1枚のアンケートが配られました。その中に「今、一番会ってみたい人は？」という質問がありました。このようなことは、日頃、あまりちゃんと考えたことがありませんでした。アンケートをきっかけに、よくよく考えてみると、著名人、旧知の人、会いたくてもかたんに会えない人、たくさんいました。これまでを振り返って、私にプラスの影響を与えてくれた人たちは、今回のアンケートには、その中の3名を書きました。幼少期の私に善悪の区別を教えてくれたアンパンマンの生みの親、やなせたかし氏。父親として子育てにどう関わるのかを示してくれた、養老孟司氏。このお二人については、以前の「ほつぷすてつぷじゃんぷ」でもご紹介しました。いわゆる著名人ではないけれども、なかなか会うことができない、でも一番会いたい人、それは、高校時代の恩師「末広和子先生」です。塾の先生

をしておきながら、大変恥ずかしいのですが、正直、私は、本当に勉強が嫌いな高校生でした。勉強嫌いエピソードは山のようにたくさんあります。そんな私に、今振り返れば、人生のターニングポイントといえる生きる道のヒントを与えてくれた先生です。高校3年生の夏休みが明けた9月のことです。先生に声をかけられました。

「西川君、私の教師人生はまもなく終わりだけど、あなたは、3本の指に入る勉強しない子ね。卒業までめいっぱい遊んで浪人して大学目指そうっていうのもいい考えだと思う。でもさ、あなたは、私が認める本当の勉強嫌い。浪人生活っていうのは、朝から晩まで勉強漬けだよ。部活もなければ、生徒会活動もない。あなたは、授業でなく、そういう場所があつて輝ける人。そんな1年、あなたには、何のプラスもないと思うけどな。先生になりたいていう夢、早くかなえたほうがいいと思うな。」

こんなお話でした。この先生には入学時からずっとお世話になっていたので、それまで、何も言わずに見守ってくださっていた先生からの初めてのお説教でした。しかし、私は、ハッと何かに気づきました。今、CMで流行っている、「いつやるの?」「今でしょ。」といった感覚だったのを覚えています。今は、遠く離れた九州でのんびりと隠居生活を送っていると年賀状でお知らせを頂戴しています。ぜひ、お会いして、感謝の気持ちを伝えたい方のお一人です。

新学期早々、私事の昔話で失礼しました。4年目を迎える「あんぱんち」。今年度も、教育のこと、子育ての話題、塾での出来事、そして、私のこと、その時々と思うことを自由に書き綴ります。今年度も、ぜひ読んでいただきますようお願いいたします。

塾長 西川 陽祐

今月の学問のすすめ

《もとの文》

ありもんじん
蟻の門人となるなかれ。



《今のこぼれごと》

ただ食ふことや住むところ
や着るものためにはたらく
のは、アリとおなじだよ。

自分のためだけにがんばる人生は、ちよつとつまらないと思わないかい?

「蟻の門人」とはアリの生徒という意味です。アリの生徒になってはダメだよ、諭吉先生は故郷の友だちについています。

どういう意味かというと、せっかく人間に生まれたんだから、アリのようにただ食べていくためだけにたらくのではなく、もつと世の中をよくするようなことに、自分の一生をかけてもいいんじゃないか、ということですよ。もちろん自分の生活はだいじです。そのために一生懸命はたらくのもいいですが、そういう人ばかりだと、世のため、人のためにがんばろうという人がいなくなってしまう。

以前NHKで『プロジェクトX』という番組がありました。今の日本をつくった、無名の人たちの活躍をとりあげた番組です。DVDもでているから、みんなも、ぜひみてみるといいと思います。

その中には、あの大きな黒部ダムをつくった人や青函トンネルをほった人や新幹線をはしらせた人たちの話がでてきます。

何年も何ヶ月も家をはなれて、事故や危険な目にあいながらも、日本の社会のためにがんばった人たちがいたんだよ。その人たちのおかげで、いま私たちは便利に暮

らせているんだね。

だから、みんなも自分だけのことだけじゃなく、弟や妹やこれから生まれてくるこどもたちのことも思って、この日本をどうしたらいいか考えていくことがたいせつだよ。

リレーでバトンをわたすみたいに、前の人たちががんばってつくってくれたこの日本を次の人につないでいく。途中でバトンをおとさないように、次の人がまわっている地点まではしつて、ちゃんとバトンをわたしましょう。

そのためにはきちん勉強しなくちゃいけません。学校にいつ勉強できるいまがチャンスなんだよ、と諭吉先生はいつています。『こども「学問のすすめ」』(齋藤孝著、筑摩書房、2011年11月30日発行)



「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール 44

自分の信じるもののために立ちあがろう。もしきみの心と魂が、きみがこれこそ正しい道と信じるころへきみを導こうとするなら、ひるんではいけない。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」～子どものためのルールブック～

(ロン・クラーク著 亀井よ子訳 草思社)より